

技術・家庭科

| 技術・家庭科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて |                                      |
|--|--------------------------------------|
| ア 知識及び技能                                   | イ 思考力、判断力、表現力等                       |
| 生活に必要な基礎的・基本的な技能を身に付けること。                  | 生活や社会の中から課題を見つけ、適切かつ誠実に技術を工夫し創造すること。 |

|      | 生徒の学力の状況(課題)   | 授業における具体的な手だて   | 手だての実施時期 | 成果検証(2月)   |
|------|--|---|----------|--|
| 第1学年 | <p>ア 工具や調理道具についての簡単な知識はもっているが、適切な使用方法については身に付いていない。</p> <p>イ 小学校の図工や家庭科で製作することには慣れ親しんでいるようだが、思考し課題を発見する力には課題がある。</p> | <p>ア 演示により丁寧に指導し、教え合いにより学びを深め、実技テストで定着させる。</p> <p>イ 毎授業で授業内容の振り返りを行い、成果と課題を見つけさせ、次回の授業につなげる。</p>                            | ・常時      | <p>・多くの生徒が適切に工具や調理器具を使うことができるようになった。</p> <p>・複数の生徒は自身が製作した製品の振り返りを通して、製品の課題を見付けることができた。</p>        |
| 第2学年 | <p>ア 電気製品の製作やミシンの使い方に対して不慣れた生徒が多く、工具の正しい使用法は身に付いていない。</p> <p>イ 課題を発見する力は身についたが、課題解決能力については課題がある。</p>                 | <p>ア ICT機器と実際の工具や道具を活用して丁寧に指導し、教え合いにより学びを深め、実技テストで定着させる。</p> <p>イ 課題解決力を高めるために、授業の中で考えさせる機会を多くするとともに、調べ学習を通して主体的に学習させる。</p> | ・常時      | <p>・多くの生徒が適切に工具やミシンを使うことができるようになった。</p> <p>・一部の生徒は自身が製作した製品の振り返りを通して、製品の課題への適切な改良案を見付けることができた。</p> |
| 第3学年 | <p>ア タブレット端末への関心は高いが、プログラミングに関する知識や技能を身に付けることに苦労している。</p> <p>イ 課題解決能力を活かして、プログラミング等の作業に取り組んでいる。</p>                  | <p>ア ICT機器とプログラミング教材を活用して丁寧に指導し、教え合いにより学びを深め、実技テストで定着させる。</p> <p>イ 課題解決能力をさらに高めるため、授業の内容を問題形式で振り返る。</p>                     | ・常時      | <p>・プログラミングに関する知識を身に付け、高度なプログラムが書ける生徒が増えた。</p> <p>・学習状況を振り返ることで、意欲的に学習する生徒が増えた。</p>                |

|  |   |
|--|---|
| <p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートへの記述内容をロイロノートで提出させ、添削したり、クラスでの意見共有などを行う。</li> <li>・プロゲル技術やロイロノートといった様々なソフトウェアを使用して、1人1人が課題に取り組み、それを提出させることで、個々の理解に応じたアドバイスを行う。</li> </ul> | <p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を明示し、授業の見通しを持たせる。また、新たな単元の際には、単元を通して身に付けてほしい力や全体の学習の流れを説明し、生徒に見通しを持たせる。</li> <li>・前時の復習を授業の導入で行うことや満点体験を行い、学習内容の定着を図る。</li> </ul> |
|--|---|